

深川小学校で青空給食会

5月7日、深川小学校で青空給食会が行われ、全校児童64人が、学校のグラウンドや赤崎神社裏敷などで給食を食べました。

青空給食会は春と秋の年2回、気候のよい日に行われるもので、今年で6年目を迎えます。この日の献立は、きなこパン、焼きそば、冷凍みかん、牛乳で、児童はそれぞれ給食を弁当箱につめて、グラウンドや赤崎山に向かいました。いつもと違う環境で食べる給食はとても美味しかったようで、児童はとても楽しそうに給食を食べ



児童はとても楽しそうに給食を食べていました。

長門豊川稻荷献茶祭

4月29日、長門豊川稻荷で献茶祭が行われました。今年で40周年を迎えるこの茶会には地元多くの茶道人が訪れ、京都から招かれた木村一静庵宗匠の作法を静かに見守っていました。



俵山温泉まつり

4月24日、25日に俵山温泉まつりが行われました。俵山女歌舞伎をはじめ、仮装パレードや綱引きなどのイベントで盛り上がり、子どもみこしが温泉街を練り歩いてまつりに花を添えました。



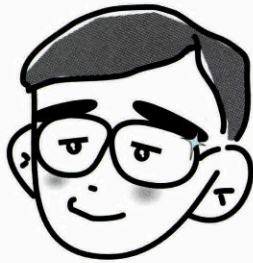
090金融 不法ビラ一斉撤去

4月21日、090金融業者の不法ビラを市、県、国の関係者らが一斉撤去しました。この日は警察官の立ち会いのもと、電柱やガードレールなどに貼られている不法ビラを撤去しました。



ながと日記 ばーと47

長門市長 松林正俊



50年を振り返る

●成熟期●
(S.59~H.5)

4月24日、赤崎山児童公園で、市制施行20周年を記念して長門青年会議所のみなさんによって埋められたタイムカプセルが30年ぶりに開かれました。多くの関係者が見守るなか、当時の小・中学生の作文や絵、写真や雑誌など懐かしい品々が次々に取り出されました。

「変わったものもあれば、変わらないものもある」といった印象ですが、中学生の描いた「青い海、緑と太陽の街」の標語がとて新鮮でいきいきと感ぜられました。

さて、へ50年を振り返る～です

が、昭和59年、大津高校が花園で3位に入り「走れタックル」のラグビースタイルを全国に轟かせ、県下随一のラグビー校となりました。翌年「第1回いきいきのびのびなご」とふるさとまつり」が開催され、文化・産業祭として今日まで続きます。「シティカラー」も決定され、みずぎさんの童謡を「ふるさとメロディー」に制定するなど、地域の個性や魅力を高まづくり活かそうという気運が高まっています。

また、NHK朝の連続テレビ小説「和つこの金メダル」や大津高校校教諭だった成松先生(智ノ花園)の角界入りが私たちに自信と夢をもたせてくれました。

国内では1万円、5千円、千円の新札発行やつくば万博の開催、青函トンネル・瀬戸大橋の開通で日本列島は陸続きとなるなど、右肩上がりの日本経済・社会はほぼ頂点に達します。そのような中、グリコ・森永事件やリクルート疑惑、日航ジャンボ機墜落事故など戦後の急成長の歪みとも言えそうな事件・事故もありました。

国際社会でもスペースシャトルの爆発やチェルノブイリ原発の事故など、科学の急激な進歩に警鐘を鳴らすような事故が相次ぎました。そして、東西ドイツ統一やソビエト連邦の崩壊で米ソ冷戦時代は終わりを告げますが、多国籍軍によるイラク空爆で湾岸戦争が勃発し、新たな緊張が生まれていきます。

昭和64年1月、昭和天皇崩御とともに、敗戦と失意、復興と希望、繁栄と慢心、それぞれを経験した「私たちの昭和」は終わりを告げ、平成の時代に移ります。

昭和59年から平成5年までの10年間、いわゆる30代の長門市は、急激に変わろうとする社会のなか、自分らしさをしっかりと築いた成熟期であったと思います。